

みんなの健康ラジオ

『お腹の弱い方のために』
—過敏性腸症候群 診断—

(2021年7月8日放送)

横浜消化器内視鏡医会

さかきばらクリニック

榊原 映枝



過敏性腸症候群（IBS）って何？

過敏性腸症候群（Irritable bowel Syndrome）

⇒腹痛・下痢・便秘など便通の異常を伴う症候群（ローマⅣ分類）

- お腹の痛みや調子が変わるく、それと関連して便秘や下痢などのお通じの異常（排便回数や便の形が異常）が数か月以上続く状態のときに最も考えられる病気です。
- 大腸に腫瘍や炎症がないことが前提ですが、およそ10%程度の方がこの病気と言われています。

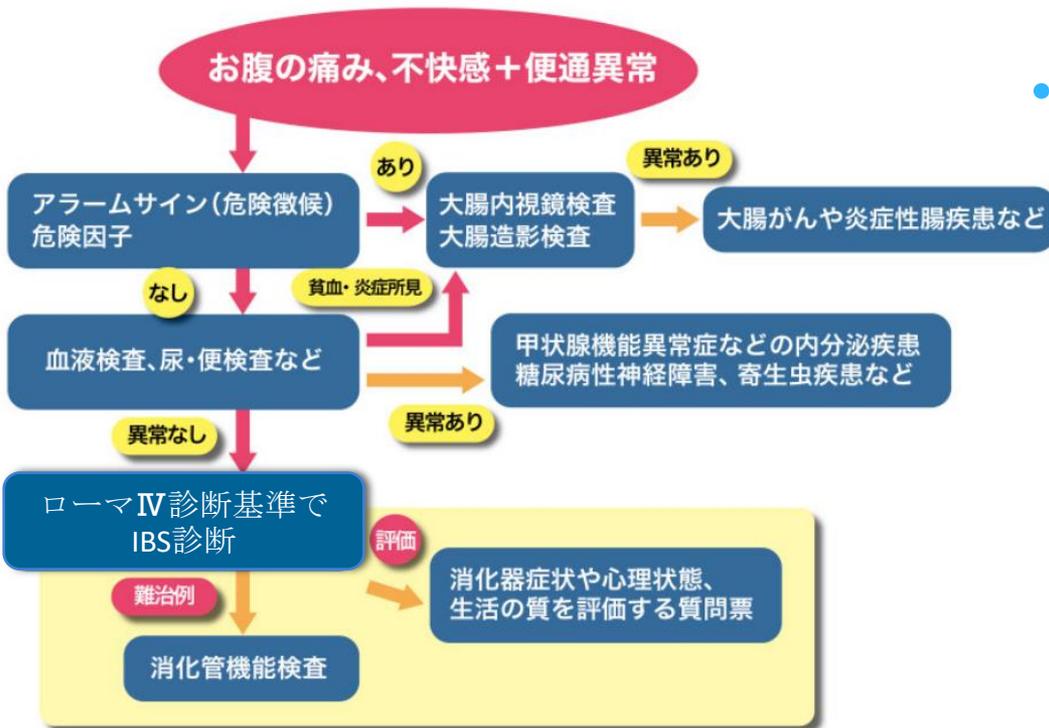
過敏性腸症候群の原因（病態）

ストレスと内臓の知覚過敏の2つの病態、腸内細菌も注目！

- 過敏性腸症候群の原因（病態）としては、精神的なストレスに伴って敏感になっている場合と、お腹の中で知覚過敏の状態になっていて通常でも感じない刺激にも反応してしまうという場合があります。
- 最近注目されているのは、腸内細菌です。腸内細菌を標的とした治療が試みられています。腸内細菌の構成は、幼少期にある程度決まると言われていますが、劇的に食生活が変わったりすると、影響を受けることが考えられています。

過敏性腸症候群の診断

過敏性腸症候群の診断は症状を元に行われます。
また必要に応じて内視鏡検査や血液検査、CT検査などを行います。



- がんや炎症性腸疾患など内視鏡で分かるような疾患を有していないにも関わらず、症状があることが、診断のポイントです。他に可能性のある疾患を除外していった上で、症状を元に診断と評価を行います。

過敏性腸症候群の種類

便秘が主体の「便秘型」、下痢が主体の「下痢型」、便秘と下痢が混合している「混合型」、どちらの症状が優位とも言えないが腹痛がある「非特異型」の4つに分類

タイプ

便秘型・混合型	①		小塊が分離した木の实状の硬便・通過困難
	②		小塊が融合したソーセージ状の硬便
分類不能型 (非特異型)	③		表面に亀裂のあるソーセージ状の便
	④		平滑で柔らかいソーセージ状の便
	⑤		小塊の辺縁が鋭く切れた軟便・通過容易
下痢型・混合型	⑥		不定形で辺縁不整の崩れた便
	⑦		固形物を含まない水様便

便の形状によってタイプが分けられます



自分自身で判断してしまうと...

下痢だからといって、自身の判断で下痢止めを服用すると危険なことも

- 患者さんは市販されている下痢止めを服用することもあるかと思います。
- 下痢と便秘を繰り返されている患者さんでは、便秘の方がメインの症状であることもあります。
- そのような場合、下痢止めを服用すると、症状の悪化を招くことになります。
- どのタイプの過敏性腸症候群で、どのような処置が必要であるかは、かかりつけ医などに相談して下さい。